

パトリシア・モゲルさんの新たなプロジェクト “NIDO(ニド)文化センター”



NIDO文化センターを案内するパトリシアさん

ウインドファームとトセパン協同組合を繋げ、森林農法(アグロフォレストリー)の研究者、そして生物学者として長年活動してきたパトリシアさん。そのパトリシアさんが、いま次男のエミリオさんと取り組んでいるプロジェクトがある。それが、NIDO(ニド)文化センターの設立だ。

NIDO(ニド)とはスペイン語で“巣”を意味する。さまざまな人々や文化が交わり、多様な社会を育む場所になりたいということから、この名前を付けたという。ワークショップ以外にも、カフェを併設することで、コーヒー生産国であるメキシコと、日本などコーヒーを消費する国との交流もはかっていると考えている。

パトリシアさんが暮らすのは、メキシコ・ミチョアカン州の州都モレ

リア。その中心地にある歴史地区は、ユネスコの世界文化遺産に登録されており、ニド文化センターもこの地区内にある。そのため、改修工事に関しては200年前の建築様式を忠実に復元する必要がある、国の文化財保護機関との調整が続けながら、少しずつ工事を進めてきた。ニド文化センターの構想が生まれてから約8年。ようやく2023年2月のプレオープンにこぎつけた。

パトリシアさんがこのニド文化センターの設立を思いついたのは、日本で体験したことが大きい。2005年を皮切りに、ウインドファームはパトリシアさんを日本に招聘し、全国各地で講演会やイベントを行ってきた。その中で毎回イベント開催場所として立ち寄っていたのが東京の「カフェスロー(国分寺市)」だった。カフェスローでのイベントを通して、ウインドファーム代表の中村がお客さんと触れ合い、コーヒーの生産者や環境問題を伝えながらコーヒーを淹れる姿を見る中で、メキシコにもこんな場所を作りたいと思ったのがきっかけだったという。

ニド文化センターでは、この土地



カフェスローでのコーヒーイベントに参加するパトリシアさん(右端)

ならではの料理やアート活動など、地元の知恵や経験を掘り起こすようなイベントやワークショップを行いたいと考えている。さらに日本のカフェスローで体験したことも伝えていくつもりだ。

それは、一杯のコーヒーを通して、コーヒーの品質などそれ自体を伝えると同時に、誰によつて、どこどのように作られているのか、それをメキシコの人たちに知ってもらおうということだ。それは単なる情報ではなく、パトリシアさん自身の体験からくる学びや情報として伝えられていくので、きっと深く広い知識として学ぶことができるだろう。ニド文化センターを、人々が集まり、人生の経験をシエ

アし、学び合うことを楽しめる場所にしていく。それがパトリシアさんの願いだ。

先では、コーヒーに限らず、カカオやメスカル(テキィラ)といった他の生産物などにも広がっていきたいと考えている。こうした生産物は、生物学的のみならず、先住民族の文化的な豊かさや多様性の保全を考える上でもとても大切なものだ。こうしてメキシコの人々だけではなく、日本など国外の人たちとの交流によつて、皆が自分たちの価値を見直し、多様なコミュニティや世界が広がっていく。それを考えると、私もとてもワクワクする。パトリシアさんは、いずれ、日本の人が滞在し、メキシコの伝統や文化の体験を通してスペイン語を学ぶクラスもやってみたいと話していて、夢は大きく広がっている。

これからも、ニド文化センターの取り組みを見守り、時には関わりながら、その様子を伝えていきたいと思う。日本の人たちがここを訪れる日も、きっとそう遠くないはずだ。

(文:ウインドファームスタッフ

岩見知代子)